

## 週日の説教

金 大烈 神父 2009年11月25日(水)

### 《殉教の精神》

おはようございます。

今日はある方の遺言を紹介させていただきます。

「私はなんの罪も犯したわけではございません。ただイエス・キリストの福音を述べ伝え、その教えを広めたという理由だけで殺されるのです。はばかりに申し上げます。確かに私はイエス・キリストを述べ伝えました。そして、この理由で殺されるのを私は喜んでおります。神様から与えられたこの殉教のお恵みを心から神様に感謝申し上げます。人が死に臨んでどうして偽りを申しませう。私は今、死に臨んで真実のみを申し上げています。私の言う事をどうか信じて下さい。この方イエス・キリストによる他以外に、救いの道のございませぬことを確信して申し上げます」

「私は太閤様を赦します。半三郎を赦します。役人を赦します。今まさに私を槍で殺そうとしている執行人を赦します。なぜなら、イエス・キリストが私の罪を十字架で赦して下さったからです。イエス・キリストはあなたの敵を愛し、迫害する者のために祈れと言われました。ですからこの死罪について太閤様はじめお役人衆に、私はなんの恨みも抱いてはおりません。ただ私の切に願いますのは、太閤様を始め、全ての日本人がイエス・キリストを信じて救いを受け、キリシタンとおなりになることでございます。」

これがその遺言です。十字架にはりつけにされて、処刑される前に、槍に刺される前に、群衆の前で大きな声で叫んだものです。実際に私は、韓国で訳された物を読んだ事があるのですが、今日はオリジナルを探してみました。太閤様は豊臣秀吉の事ですね。では遺言を残したこの方はどなたでしょうか？(誰からも正しい答えが出ず、「日本の宝物でしょう」と司祭が苦笑した。)

26 聖人殉教者の一人で、イエズス会のパウロ三木という人です。彼が 1597 年 2 月 5 日に、長崎の西坂という丘で、26 人がはりつけにされた十字架の上から、彼らを見ようと集まってきた 4000 人の群衆の前に残した言葉です。1596 年に京都、大阪、そして下関で色々な人々が次々と捕らえられました。逮捕されたその場で両耳を切り落とされてしまいます。人々から石を投げられたり、残酷な責め苦を受け、そして、厳冬の時季に京都から長崎まで 800 キロの道のりを歩かされたのです。1596 年の 12 月に逮捕され、翌年の 2 月 5 日には全員が殺されたのです。これが日本の最初の聖人になった 26 人の殉教が行われた現場です。

さあ、このようなすばらしい信仰をもって殉教された先祖達を私達は持っています。

今日の福音(ルカ 21・12~19)でイエス様がおっしゃった事と全く同じですよ。ですから、今日の福音を読んで、カトリック教会は“殉教の精神”を軽んじては、絶対うまくいかないことを申し上げたかったのです。

「カトリック教会には、大切な“三つの精神”があります」と私は言いました。「この“三つの霊性”に実りがなければ、その教会は必ず崩れます」という話を皆様に申し上げたことがあります。一つはなんですか。【御聖体に対する心】、二つ目は【マリアさまに対する心】。三つ目は【殉教の精神】です。

【殉教】。この豊かな知恵がむだにならないように、私達は、本当に祈りの中で正しい生き方、正しい信仰の道をいつも黙想が出来る生活をしましょう。

ありがとうございました。